

舞鶴市廃棄物減量等推進審議会(第5期)第7回会議 摘録

【日時】令和2年1月28日(火) 午後1時30分～午後3時30分

【場所】市役所別館5階 中会議室

【出席委員】内海委員、尾上委員、木谷委員、品田委員、谷口委員、藤原委員、丸山委員、森委員、山川委員  
(12名中9名出席、有効に成立)

【事務局】市民文化環境部長 西嶋、環境対策室長 井田、生活環境課長 福田、清掃事務所長 橋本、リサイクル事務所長 上枝

【傍聴者】2人

1. 開会
2. 議題

(1) 一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の中間見直しについて

①循環型社会形成に向けた現状について

事務局から「循環型社会形成に向けた現状について」(資料1)について説明。

【意見等】

(山川会長)【資料1】に関連して補足すると、8ページ上段の第四次循環型社会形成推進基本計画の食品ロス目標値については、家庭系食品ロス量だけではなく、事業系食品ロス量の目標値についても2000年の食品ロス量を起点に2030年には半減することになっている。

(品田副会長)下記の4点についてお尋ねしたい。

①ICT活用の今後の見通しについて

②小学校でのプログラミング教育は具体的にどのような取り組みになるのか。

③学校等の教育現場とどのように連携してSDGsに取り組んでいくのか。

④近年力を入れている移住・定住について、農業や観光をはじめとした分野での具体的な施策があれば教えてほしい。

(福田課長)①のICT活用の今後の見通しについては、昨年度Iotを活用した小型家電等収集実証実験を行った。継続して事業を実施するには膨大な経費がかかることから、今年度はセンサー等を使用せず拠点回収ボックスのみを活用している。実証実験で得たデータはあるので、今後の活用方法について検討していきたいが、具体的な方針をお示しする段階には至っていない。ICTの活用についてはごみ収集全体の中で経費等鑑み検討していきたい。

③の教育の場との連携については、現在、環境学習の一環として、まいる環境市民会議や生活環境課にて、小学校や高校への出前授業を実施している。

(西嶋部長) ②の小学校でのプログラミング教育については、パソコンの配備や指導者の確保など、環境を整えるところから始めているところである。

④の移住・定住促進事業については、農業・林業・漁業などを一から学べるプログラムの導入、空き家情報の提供など1人でも家族でも移住しやすい環境を作っている。一方、「まちなかエリア」の空き家も課題であり、市と高専で協力し、リフォームを行い、毎年入居していただいている。また、自治会とも協力しながら、住み続けられる田舎暮らしができるよう取り組みを進めているところである。

(尾上委員) 高専が関わっているリフォームの取り組みは年1件だが、続けることで地域の活性化へつながると考えている。

(丸山委員) 3010(さんまる・いちまる)運動は市内全域へ周知していかないのか。

(福田課長) まずは、市役所が模範的に進めていき、今後、企業や団体にも啓発していきたい。

(西嶋部長) 本審議会には様々な団体の方が委員におられるので、こうしたつながりをきっかけとして市民へ広く周知していきたい。

(山川会長) 基本計画の中でどのように広げていくのか、今後、ご意見をいただきたい。

## ②循環型社会形成に向けた現状について

事務局から「中間見直しの流れと審議日程」(資料2)及び『「一般廃棄物(ごみ)処理基本計画での基本方針・取組内容』と『第4期審議会答申』との対照表」(資料3)について説明。

### 【意見等】

(尾上委員) ある程度実施できているものは大丈夫だが、全くできていない目標は数年動きがない。そうした部分は今後どうしていくつもりなのか。

(福田課長) 未着手の部分は、今後、具体化して取り組んでいきたい。公平な受益者負担については、ごみ処理手数料の見直しの中で検討していく。

(上枝所長) 7ページの適正排出の取り組みのうち、他市からの持ち込みについては、個別に対応しているが全体的に見ると対応できておらず、未着手となっている。今後できる限り努めていきたい。

(山川委員) 未着手の部分については、スクラップ&ビルドも必要だろう。

(内海委員) 出前授業は子どもの環境に対する意識を高め、その親にも良い影響を与えるので良い取り組みだと思う。具体的にはどのような授業を実施しているのか。

(福田課長) 本市のごみの分別方法やごみの減量・リサイクルの仕組みについて、イラストや写真で子ども向けの資料を作成し、スクリーンに映して1時間の授業を行っている。

まいづる環境市民会議で行っている買い物ゲームは、買い物をすることでごみが発生すること、ごみを処理するにはお金がかかるということをゲームを通じて知ってもらい、ごみ減量の意識を高める学習である。

その他、地球温暖化防止のためにゴーヤを育ててもらおう「緑のカーテン事業」や、環境のことについて学ぶ環境フェスタを開催する等、様々な形で子ども向けの啓発を行っている。

(内海委員) 教育委員会とも協力して、今後も継続してほしい。

(尾上委員) 小学生向けの啓発事業が多いが、高校生向けの啓発事業は無いように感じる。実際にごみ出しを行う可能性の高い高校生や高専生向けの取り組みも検討してほしい。

(福田課長) 高校生や高専生についても、個別にご相談いただければ対応していきたい。

なお、環境フェスタやおもちゃ交換会「かえっこバザール」ではイベントスタッフとして東、西、日星高校の生徒に参加していただいております、ワークショップを通じて高校生にも学習していただいております。

(森委員) この審議会についても高校の授業で勉強していると聞いた。

(上枝所長) 中学生が「ふるさと探偵団」として郊外へ出て活動しており、その一環として今年度は、青葉・白糸中学校の生徒がリサイクルプラザで体験学習を行った。

### ③可燃ごみの現状について

事務局から「可燃ごみの現状について」(資料4)について説明。

#### 【意見等】

(谷口委員) 普段利用している地域の集積所には、新聞紙や色付きの袋を使って中身が見えないようにされている指定ごみ袋がたくさん出ている。今回調査するために回収したごみ袋の中にどれくらいの割合で中身が見えないごみ袋が排出されていたか。

(事務局) 袋の中身が見えなくされているものはほとんど無かった。生ごみの水分を吸わせたりするために新聞紙が使用されている程度であり、意図的に隠している印象は受けなかった。

現在は中身が見えなくても回収しているが、それによって不適正排出が増えるのであれば、今後、対処法や排出ルールを検討したい。

- (木谷委員) 再生できない紙として排出されているものは何が多いのか。また、排出されているプラスチック容器包装類のうち、汚れているものときれいなものの割合はどれくらいか。
- (事務局) 再生できない紙として排出されていたのは、主にティッシュやキッチンペーパーなどであった。また、舞鶴市ではビニールコーティングされた紙パックやヨーグルトの容器などは可燃ごみで出すよう案内している所以他们もよくあった。
- プラスチック製の包装・袋類については、ごみ袋の中で生ごみなどと混じり汚れてしまうため、排出時はきれいだっただのか、それとも排出時から汚ったのかの判断はできない。捨てられているプラスチック製の包装・袋類の多くは、内側が銀色のお菓子袋などが多かった印象がある。また、プラスチック容器は、外から見えないように2重袋にして不適正に排出されている事例もあった。
- (山川会長) アルミコーティングされているプラスチック製の包装・袋類が多く排出されていたのか。
- (事務局) そのようなものも含め、お菓子や冷凍食品のプラスチック製の包装・袋類が多くあった。
- (山川会長) 1つの袋にまとまってプラスチック製の包装・袋類が排出されていたのか。
- (事務局) 1つの袋でまとめて排出されていたものは無かったと記憶している。
- (山川会長) 事業系可燃ごみのデータも実態に近づいていると思うので、更に精査し、課題整理と対策を検討してほしい。

## 議題(2) ごみ処理手数料の見直しについて【資料5】

事務局から議題(2)「ごみ処理手数料の見直しについて」(資料5)について説明。

### 【意見等】

- (木谷委員) 市役所本庁舎の西口に庁舎から出たごみが集積されているが、そこに捨てられているペットボトルにはラベルがついたペットボトルが多くあった。市民の目に入るところでもあるし、市民に指導している立場として職員もしっかり分別してほしい。
- (福田課長) 事業所から出るペットボトルのごみは産業廃棄物として処理するため、市民の皆様をお願いしている処理方法とは異なる。しかし、市民の皆様の模範となるよう分別の徹底について更に周知を行い、改善に取り組んでいきたい。

- (西嶋部長) プラスチック容器包装類とペットボトルの分別については、令和 2 年 1 月から徹底するよう周知しているが、現状まだまだなので、再度、庁内ルールでの周知を徹底したい。
- (森 委員) 見本として PR できるよう頑張ってもらいたい。
- (山川会長) 来庁者もそこにごみを捨てているのか。
- (福田課長) 市役所内から出たものだけを集積している。
- (内海委員) 亀岡市のスーパーではマイバックではなくマイカゴというものがあると聞いた。その話を聞いて洗濯物を入れるランドリーバックをマイバック代わりに利用してスーパーで買い物してみたところ、商品もたくさん入りとても使いやすかった。このような生活の中で誰でも簡単にできる工夫や知恵をどんどん市から発信してほしい。
- (尾上委員) 市役所が積極的に取り組んでいるペットボトルやプラスチック製の包装・袋類の分別は、小学校や中学校などでも取り組んでいるのか。高専では、ペットボトル専用のごみ箱ができ、職員や生徒も分別している。市役所だけでなく教育機関にも広がっていくと良いと思う。
- (福田課長) 家庭から排出されるプラスチック製の包装・袋類は、4 月から「プラスチック容器包装類」として不燃ごみの収集日に出してもらっている。事業所から排出されるプラスチック製の包装・袋類については、産業廃棄物に該当するため産業廃棄物処理業者と排出事業者にて排出方法を調整してもらい必要がある。そのため、可燃ごみとして排出できる猶予期間を 1 年間設けている。処理業者との調整も上手く進んでおり、順調に移行していると聞いている。
- (谷口委員) 分別の変更によりプラスチック製の包装・袋類が不燃ごみとなったため、「可燃ごみを排出する際に使用のごみ袋のサイズが小さいサイズになった。」とか、「可燃ごみが週 1 回出すだけで済んでいる。」といった話を聞いた。
- しかし、プラスチック製容器包装類の排出量は多く、その上、地域の不燃ごみの収集は月 1 回のため、どのようにプラスチック製容器包装類を排出するか頭を悩ませている。買い物に行った際にスーパーに持って行ったり、西支所など近くの市の施設での拠点回収を利用したりしているが、どこもたくさん排出されていて溢れている。
- 個々のライフスタイルや生活圏によって利用しやすい排出方法は異なるが、現在の分別等に対応した生活の再構築が必要だと感じる。
- 食品トレーなどスーパーで回収している品目等をまとめた情報があれば発信してほしい。
- (森 委員) 私も買い物に行くたびにスーパーへ持っていっている。スーパーでもたくさん回収されており、店員の方が随時、回収ボックスの中身を取り換えている。

- (谷口委員) 行政の役割として拠点回収を実施しているのは理解している。また、月1回の収集やスーパーへの持ち込み、市の施設での拠点回収など排出方法はたくさんあるが、生活レベルでの情報や地域でのコミュニケーションが不足しており、情報が広がらない。
- (森委員) インターネットも普及しているので SNS 等を活用して情報を発信していくのも1つの方法としていいと思う。
- (木谷委員) スーパーによって回収している品目が異なるが、どのスーパーが何を回収しているのかわからないため、買い物時に持って行っても排出することができず持って帰る時がある。
- (福田課長) ペットボトルや食品トレーを回収しているスーパー等のうち、マイ・リサイクル店に認定している小売店については舞鶴市ごみ分別ルールブックや舞鶴市のホームページにて広報している。しかし、マイ・リサイクル店認定店のなかでもプラスチック製のトレーなどは店頭回収を実施していないところもあるので、店頭回収の充実に向けて小売店や事業者との協議が更に必要だと考えている。  
古紙類やアルミ缶等を回収している資源回収団体についても舞鶴市のホームページにて公表する予定である。様々な方法で幅広く情報発信していきたい。
- (山川会長) 京都市では地図を活用し、エリアごとに分け回収団体の情報を発信している。グーグルマップは無料で使用できる。情報を発信するにあたり利用しやすいものを使用し公開していけばいい。
- (尾上委員) 今の議論の話題にもあるように、地域の収集だけでなくスーパー等を利用することで排出することができる。しかし、すべての人がスーパー等の回収を手軽に利用できるわけではないので地域での収集回収を増やすことについては、前向きに検討し、市民サービスの充実に努めてほしい。

### 議題 (3) その他

事務局より議題 (3) 「その他」について説明。